

とありますが、今まで出会ってきたのは塩濃度の高いところが多かったため、まさかここで出会うとは思いませんでした。これも新たな発見です。特に今回捕れた個体はどれも大型で、瑠璃色の斑がとても美しかったです。

ヒモハゼ[写真 13]にもたくさん出会いました。環境が悪くなるとすぐに姿を消すという本種ですが、たくさん居たということは、それだけこの干潟の環境が良いということなのでしょう。こんな環境を大切にしていきたいものです。



▲写真 13 : ヒモハゼ



▲写真 14 : 標本

今回、久しぶりにいつもと違う干潟へ出掛けて、新たな出会い、発見がありました。春の干潟でよく出会う顔ぶれの中に、新たな顔が混じり、とても新鮮でした。やっぱり干潟楽しいです、来て良かった！帰り際、本流の方ではボラが跳ねまくっているのを見て、これからどんどん温かくなって魚とりの季節が来るなあと思いました。

実は車の免許を取ってから今回が初めての魚とりでした。行きは父に運転して貰いましたが、帰りは私が運転しました。コロナ禍も終わり活動制限が緩くなったためか、帰りの中国道でガッツリ渋滞にハマリ、慣れない渋滞運転の中、これから人出が戻ってくる、渋滞も増えるだろうし嫌だなあと思いながら帰宅しました。

持ち帰ったハゼ達は、頑張って鰭立てして標本にしました[写真 14]。エドハゼの鰭を広げていると、特に臀鰭が、こんなに鮮やかだったっけ？もっと淡い印象だったんだけどなあ？となりました。よくタナゴ類などは標本で色を残すのが難しいと言われますが、逆に固定すると鮮やかになる種もいるようです。結局持ち帰ったのはエドハゼ 2 匹(上)とチクゼンハゼ 2 匹(下)でした。やっぱりキセルハゼではありませんでした(笑)。でも良い勉強になりました。これを機にキセルハゼについて色々知れたので、次はキセルハゼに出会いたいな～。

＜仲 匠誠＞